

## 会から

〇い、季節です。雷は開きます。虫は飛びます。羽虫は飛びます。その中にも、今月から小学校へ進んだ子らの、なんと張り切つていよう。ときに幼稚園へ遊びに来る、一年生らの、急に見ちがえるように、兄さん姉さんぶつてきたことでしょうか。

〇どの子をも昔のまゝに可愛いがるのが先生の心理ですが、一月前の、否一年前の幼稚園児扱いにすることはよしませう。

『あなたが幼稚園へ初めて来たときはねえ』なんて頭を撫でることは、もうよしませう。『先生わたしはもう小学生です』と、抗議したそうな、この口、この目のけなげさをこそ迎えてやりませう。その自負と希望とに応じてやりませう。きょうの幼稚園児としてではなく、きょうの小学生として訪ねて来たのですから。

〇『武士三日見ざれば』という言葉があります。武士とは昔の言葉ですが、すべての幼児みな三日見ざればです。

〇児童の発達としては、きょうの幼稚園児

ときよの小学生とは、連続的成長に外なりません。何も、突然変化の飛躍発達ではありませぬ。しかし、この小さい子のかわいらしい自覚においては、登り坂のだから、つゞきよりは段飛びの快感と勇壮さが胸を新しく張つていよう。幅飛ともちがう高飛びの颯爽味です。

〇幼稚園、保育所の修業式はどこでも盛にして下さるが、小学校進入の祝賀会（学校の方での入学式の外に）をして下さる幼稚園、保育所は少いようです。小学校に式があるからい、ようなもの、又修業式をすませたからい、ようなもの、あすの入学でなくきのうの入学を祝つて下さる催しがあつても、い、と思ひます。此の高飛びの颯爽連がどんなに喜ぶことでしょう。自分の小学校の新しいきしよを、どんなに自慢しあうことでしょう。

〇愛する幼児達を小学校に送るについて、幼稚園から小学校へのエチケットも、心持的周到も、これでい、ものでしょうか。申送り証明書類といつたようなものだけでは教育的連絡は出来ても、一人一人の子を送る幼稚園の先生と、受取る小学校の先生と

の間の、その子を扱んでの心のつながりは行届きませぬ。幼稚園の先生と小学校の先生との交りということも、二つの教育施設の本質の理解しあいというだけに止まらず（それさえ頗る出来ていませんが）、『この子をお願いします。』『ハイ御安心下さい』といった、心からの受け渡しができたらと思ひます。それが当たり前でもありますね。小学校入学という、子どもにとつてのこの大切な時に、先生方はほんとにその子の先生らしい心のゆきが沢山ある筈ですね。幼稚園の先生としてのことは、もう済んだといつたアツサリした訳ではないでしょうか。

### 幼児の教育 第三巻 第四號

定価 金五拾四

昭和二十七年四月二十日發行

東京都中野区千光前町一〇

編集者

倉橋 惣三

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附屬幼稚園内

發行所

日本幼稚園協會

發賣所

株式会社 フレーベル館

振替東京一九六四〇番

〇本誌の購読について注文申込その他はすべて發賣所  
フレーベル館宛に願ひます。